作成日　　年　　月　　日

栄養管理事例報告（集団への指導・介入）

介入期間：　　年　月　日～　　年　月　日	事例番号：
症例介入：主担当者・副担当者・	事例報告：新規提出・再提出・

対象者		５、６才児クラスのこどもとその保護者
Ⅰ　目標・計画	対象者の栄養に関連する問題とその根拠	４月に実施した保育園の身体測定で肥満度曲線+１５％を上回る児（以下体重増加児）を確認した。５、６才児クラス２４名中、昨年度は１名５％であったが今年度は４名１６％に増加した。体重増加不良児はいなかった。 栄養士からこどもへの食育は給食時に訪問して行っていた。しかし保護者への情報提供は、月１回配布する献立に掲載するのみで対面では行っていなかった。
	栄養に関連する目標	保護者が年齢、体格に対して適切な食事を摂る必要性と量を理解できる。 体重増加児は、食品群の選び方や量を分かる。
	栄養介入計画	（事前準備） 保育園では、保護者向けの保育見学会が開催される。 事前に、園長と保育士に保護者向けの食育とそれに対するアンケートについて相談する。 保育見学会の案内には栄養士からの食育時間を設けることを明記する。 食のバランスと適量について給食の写真を用い、自宅でもこどもと一緒に確認できる資料を用意する。 ダイエットではなく、楽しく適正な量を食べることが伝わるようにする。 こどもには、事前に三食食品群の考え方をクイズで説明する。 上手な食べ方として、ごはん、おかず、野菜を一緒に摂り元気な体ができることを伝える。 （当日） 開催時に、５、６才児クラス保護者に対し指導内容資料をもとに説明する。 終了後はアンケートの協力を依頼する。 （後日） 保育見学会に不参加の保護者には、当日の資料を配布しアンケートを依頼する。 特に体重増加児の保護者には、栄養士または保育士から送迎時に声をかけ、自宅での状況を確認しつつ、同様に説明する。
Ⅱ　指導	指導内容	２４名中１７名の保護者が参加した。 当日、給食前に資料を配布した。 給食で三食食品群に当てはめるクイズをこどもに行った。 栄養士と保育士の体の大きさを見せて、ちょうどよい量はそれぞれ違うこと、他の人と比べないことをイラストで説明した。 多すぎても少なすぎても元気には遊べないことを○×クイズで示した。 こどもも同じであること、ちょうどよい量は給食ではごはんは両手分、おかずとおやつは片手分であることを伝える。 楽しく食べることは大事であることを伝える。

Ⅲ 指導評価	栄養介入に対する指導効果の評価	・アンケート結果では、「忙しくてつい量を気にせず与えていたが、こどもが学んでいるので気を付けようと思った。」「いつも気を付けている。イラストは家でもこどもと一緒に確認できてよい。」と、日々の行動を振り返る内容や自宅でも確認する感想があり、理解に結びついていた。 ・その後の給食時間の栄養士訪問では、こどもに対し三食食品群を考えること、お菓子の量についてテーブルごとに週１回確認したところ、体重増加児も答えられるようになり、理解できていた。こども同士のからかいはなかった。 ・１か月後栄養士から保護者へ家庭での食習慣を伺ったところ、体重増加児４名中２名は、食習慣を見直し野菜の摂取頻度が増えたとあった。身体計測では体重増加はみられなかった。 ・残り２名は身体計測で肥満度の悪化があった。栄養士から保護者への食習慣を伺うと、時々食べすぎるが公園に行って遊ぶようになったことは確認できた。
Ⅳ 改善点	評価結果を踏まえた改善すべき点	・こどもと保護者が一緒に見る資料と、対面での全体食育で効果がみられた。 ・他の人と比べず自分の適量があることを伝えることで、こども同士でからかう発言はなく済み、引き続き配慮していく。 ・肥満度が悪化した児２名は、保護者から忙しさを理由に食習慣の改善が難しいと保育士から情報があった。 ・給食だよりでも三食食品群や量を継続して伝えつつ、保育士と協力して個別提案を行う必要がある。